

oneCLOUD 仕様書

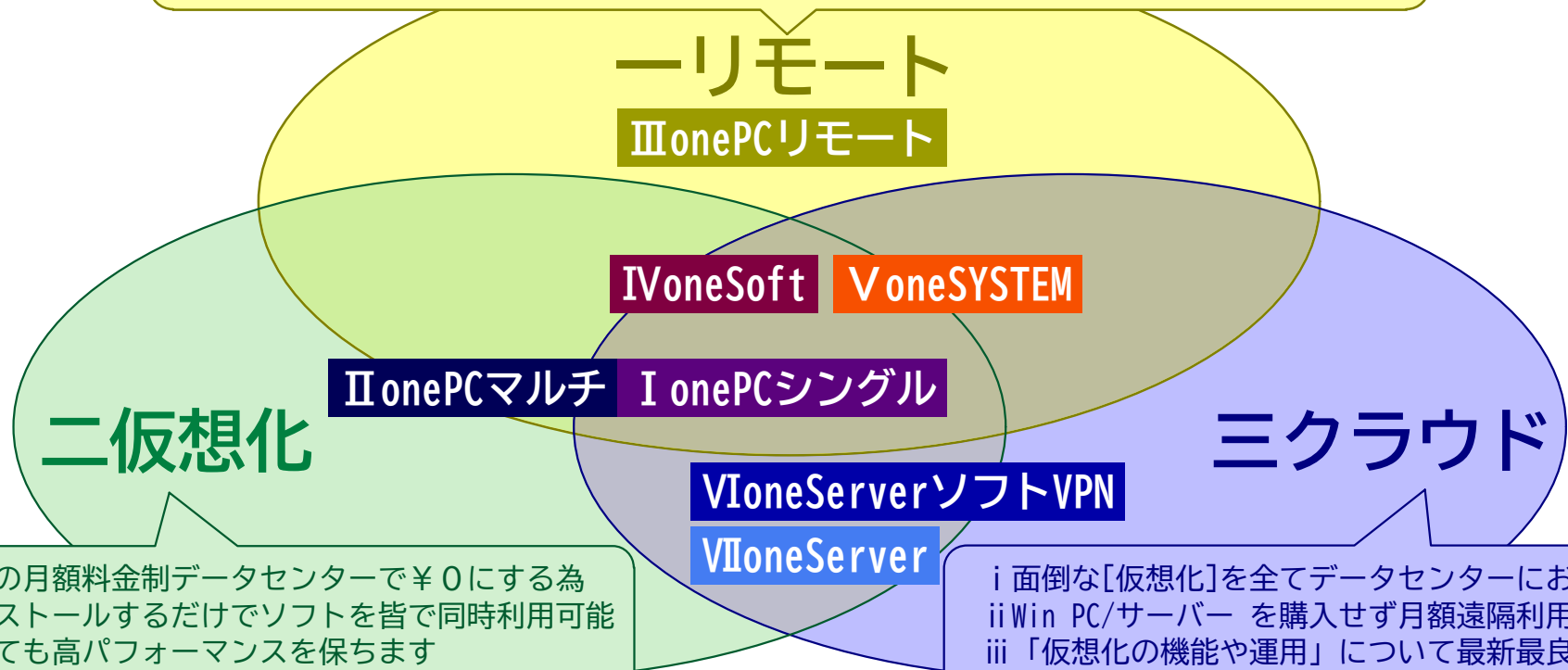
本仕様書の内容

◆oneCLOUD 3要素	.. 1	◆一リモートとは？	..17
◆oneCLOUD 3タイプ 7プラン	.. 2	◆二仮想化とは？	..18
		◆三クラウドとは？	..19
◆1 <パソコン>タイプ	.. 3		
I onePCシングル	.. 4	◆仮想マシンとは？	..20
II onePCマルチ	.. 5	◆ハイパーバイザとは？	..21
III onePCリモート	.. 6	◆オーバーコミットとは？	..22
		◆ホストOS型仮想化ソフトとは？	..23
◆2 <ソフトウェア>タイプ	.. 7	◆仮想マシンバックアップとは？	..24
IV oneSoft	.. 8	◆P2Vマイグレーションとは？	..25
V oneSYSTEM	.. 9		
		◆RemoteDesktopServices (RDS)	
◆3 <サーバー>タイプ	..10	とは？	..26
VI oneServerソフトVPN	..11		
VII oneServer	..12	◆oneCONNECTとは？	..27
③ oneFolder	..13	◆ソフトVPNとは？	..28
		◆社内運用（オンプレミス）とは？	..29
◆oneCLOUDの弱点	..14	◆CLOUDのVMware ESXiで動いている	
◆oneCLOUDの神髄	..15	Windowsにリモート接続	..30
◆oneCLOUDの実績	..16		

oneCLOUD 3要素

- ①Windows PC/サーバー を、データセンター¥0条件[仮想化]して、丸っとお任せの[クラウド]で稼働させ、端末自由/端末故障不問/快適/ネット遠隔な[リモート]操作
②上記3つの要素でITの困りごとを解決します ③7つの基本プランがあります

i 手元端末自由 (iPad/iPhone/Mac/Android/WinPC) ii WindowsPCをネット快適操作
iii 手元端末はただのリモコンだから ①壊れても②盗まれても 安全安心 iv 感染知らず
v 遠隔地 (会社/DC) のWinPC操作が通常のWinPCと同じ快適さ vi アプリケーションのみも



i 体積単位の月額料金制データセンターで¥0にする為
ii 一度インストールするだけでソフトを皆で同時利用可能
iii 使い続けても高パフォーマンスを保ちます
iv 多数の Win PC/サーバー を共存稼働させて低コスト化
v Win PC/サーバー のウィルス感染時や機器故障時には OS丸ごと、前日の状態に戻せます (毎晩バックアップ)

i 面倒な[仮想化]を全てデータセンターにお任せ
ii Win PC/サーバー を購入せず月額遠隔利用
iii 「仮想化の機能や運用」について最新最良を保証
iv メモリやCPUの量を何度でも上下させて適正価格
v 有用なITサービス (恵みの雨) を巨大な インターネット (雲) から管理不要で簡単に享受可能

oneCLOUD 3タイプ 7プラン (応用プラン除く)

- ①複数のプランを組み合わせて、あなたの環境に合った「最適解」を必ず見つけます
- ②まずは 1 <パソコン> 2 <ソフトウェア> 3 <サーバー> の3タイプにご注目
- ③プランの組み合わせ変更はいつでも可能 気になるあのプラン「のみ」でスタートOK

1 <パソコン>タイプ・・・「どこでもドア」ならぬ「どこでもWindows」

I onePCシングル

●今あるWinPCをそのまま「仮想マシン」に「変換」すれば、検証も設定も一切不要

II onePCマルチ

●例え100人でもWinPC1台でリーズナブル運用 ●ソフトインストールは一回のみ

III onePCリモート

●リモート/モバイル ワークすぐ実現 ●iOS/Android/Macからでも 自/他 席 のWinPCをリモート

2 <ソフトウェア>タイプ・・・結局利用したいのは「あのWindowsソフト」

IV oneSoft

●高価でインストールが面倒なWindows版基幹業務ソフトを、皆で順番にリモート操作

V oneSYSTEM

●クラウドのマルチテナント型基幹業務システムを端末自由でリモート操作

3 <サーバー>タイプ・・・各PCからの耐ランサムウェア強度最大100%も サーバー実機購入不要

VI oneServerソフトVPN

●あれもこれも不要で即利用可 ●耐ランサムウェア強度は、利便性とトレードオフ

VII oneServer

●onePC I シングル/II マルチ との併用で高パフォーマンスをお約束 ●特性は「VI」と同じ

③ oneFolder

●その強度は100% ●VPN不要oneCONNECTだけで簡単利用 ●エクセルのVerが違うデメリットも

1 <パソコン>タイプ

- ①「どこでもドア」ならぬ「どこでもWindows」でどこでもすぐに同じWinPCを開く
- ②「マイコックピット」ならぬ「マイWindows」で端末変わっても同じWinPCを開く
- ③ I onePCシングル II onePCマルチ III onePCリモート



I onePCシングル

- ①今あるWinPCをそのまま「仮想マシン」に「変換」すれば、検証も設定も一切不要
- ②CPUやメモリの量を増やしたり減らしたりがわずかな数分でいつでも可能です
- ③「新規」の仮想マシン作成もOK ④今まで通りの自由な「パーソナル性」を実現

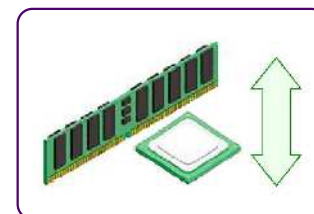
検証
設定



変換



クラウド



- i WindowsPC OSインストール
- ii ソフトウェアインストール
- iii 各種初期設定

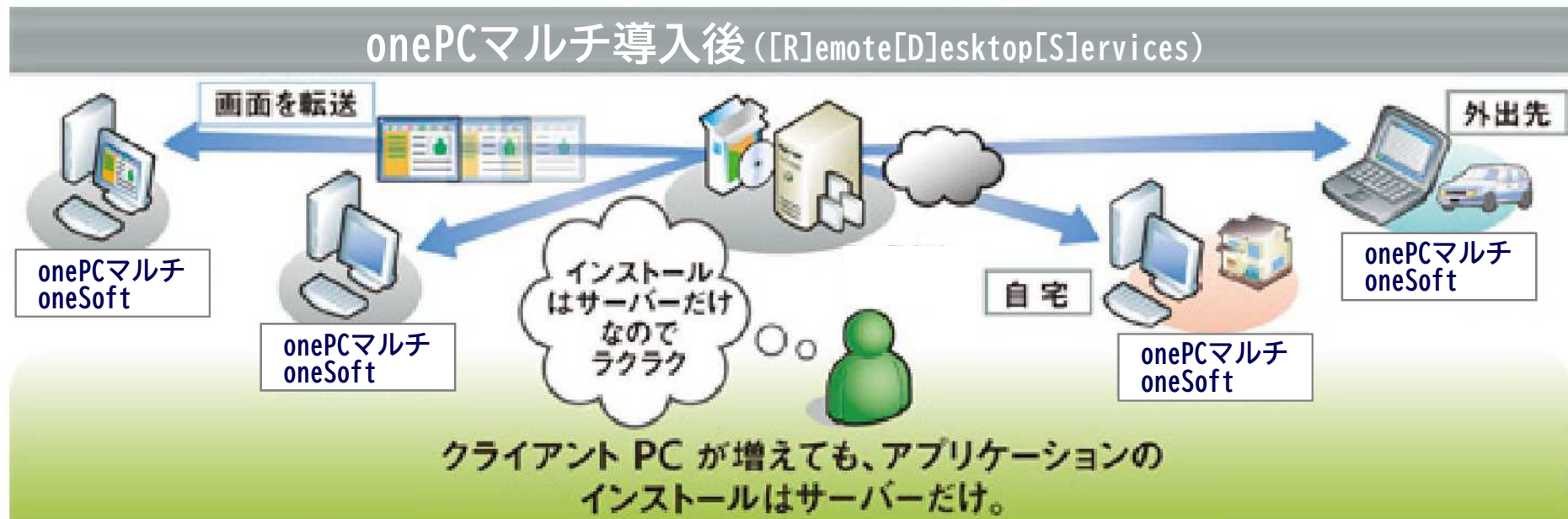
新規

VMware ESXi



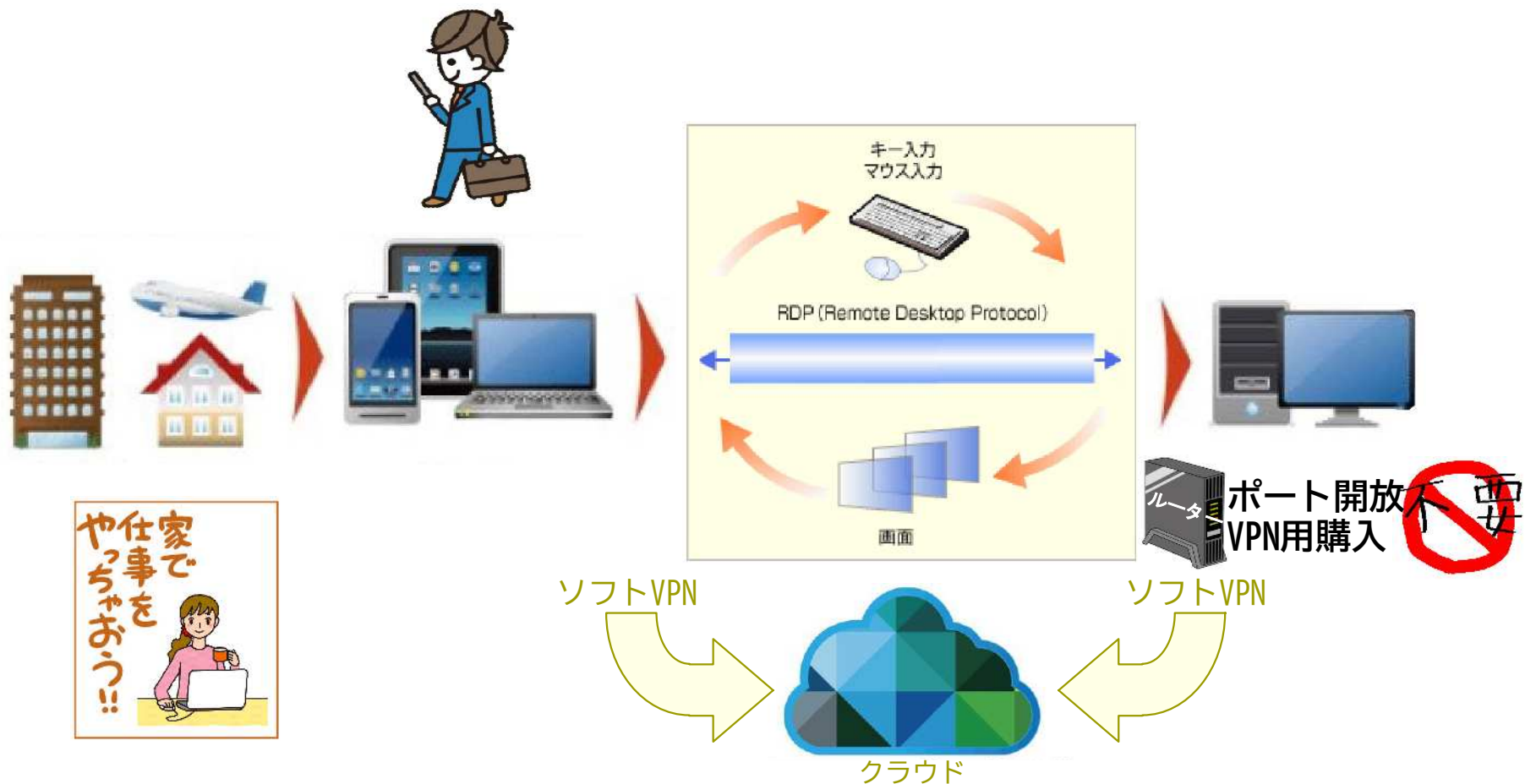
Ⅱ onePCマルチ

- ①例え「100人」でもWinPCは「1台」のみでOKだからリーズナブルに運用可能
- ②1度インストールするだけで皆がそのソフトウェアを同時に利用できてラクラク
- ③1台のWinPCに皆で同時にログオン ●RemoteDesktopServices という標準機能



ⅢOnePCリモート

- ①自席PC/他席PC のリモート操作で リモートワーク/モバイルワーク がすぐさま実現
- ②ルーターにポート開放設定をすることなく「ソフトVPN」で出先から自宅から安全接続
- ③iOS/Android からササっと 自席PC/他席PC を出先でリモート操作 Macでも



2 <ソフトウェア>タイプ

- ①結局利用したいのは「あのWindowsソフト」 ②手元「端末」手元「OS」は自由
- ③高価なWindows版基幹業務ソフトを皆で順番操作 ④IVoneSoft VoneSYSTEM
- ⑤iOS/Androidならわずか2タップで「あのWindowsソフト」が素早く起動



IVoneSoft

- ①共有フォルダの「エクスプローラー」を「RemoteApp」する「oneFolder」がおすすめ
- ②手元WinPCにインストール不要でExcelもCADも基幹業務システムも
- ③VPN一切不要
- ④Office AccessをRemote Desktop Servicesで高速化して「RemoteApp」で利用



 不要
各WindowsPCへの
ソフトインストール

 VPN
ルーター
設定
購入
 不要

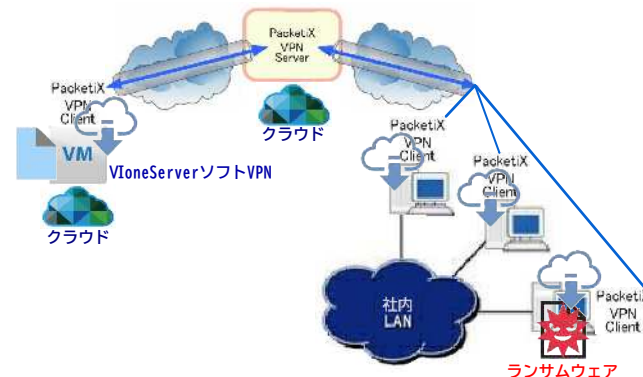
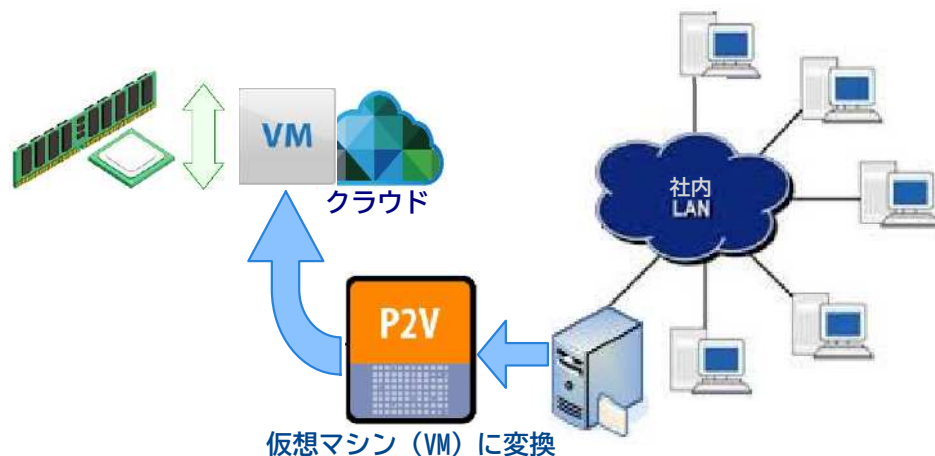
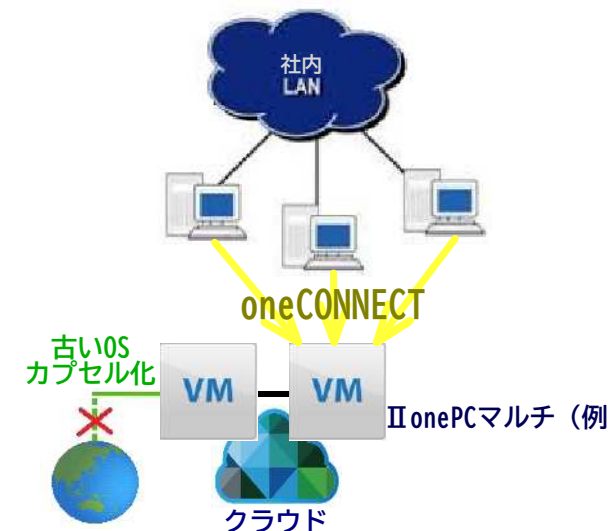
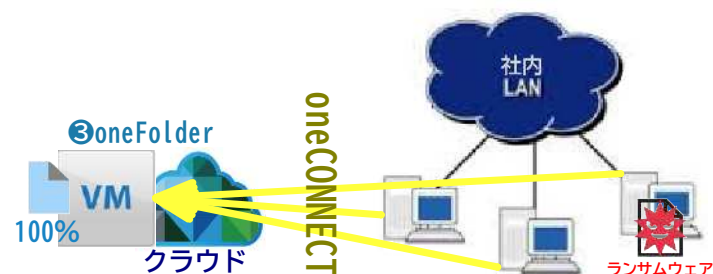


VoneSYSTEM

- ①各種プログラムは自動的にアップデートされ、追加費用無しで全て利用可能
(・売上・仕入・受注・発注・情報共有・在庫・勤怠・スケジュール…)
- ②WindowsPC端末からは簡単接続アプリ「oneCONNECT」で利用します
- ③iPadでも、閲覧だけでなく 新規登録/修正 など全ての編集作業が可能
- ④ウェブブラウザと同じタブ形式で、簡単に別の画面を追加表示可能
- ⑤iPhoneの小さい画面でも、専用レイアウトで簡単に操作が可能
- ⑥ご利用は月額料金制の1ライセンスから0Kで、大きなカスタマイズが無い場合は初期費用¥0
- ⑦oneCLOUDユーザーには無償提供(同時利用2ユーザーまで)
(oneCLOUDサポート窓口機能有り oneCLOUDに関する、契約内容や各種情報を管理)
- ⑧oneSYSTEMを同時に二つ開くことができるから「ながら」利用が可能
- ⑨Microsoft Access2021 64ビットにて開発
(各端末にMicrosoft Access2021 64ビットもRuntimeもインストールする必要は一切ありません)
- ⑩Microsoft Accessでも、複数ユーザー同時利用で全く遅くならず
- ⑪いつでもBackupデータがダウンロード可能
- ⑫非常時には前日の状態に戻します
- ⑬サーバーの購入も、サーバーの設置も、一切不要
- ⑭各端末に対して、oneSYSTEMを利用するための、初期設定もインストールも一切不要

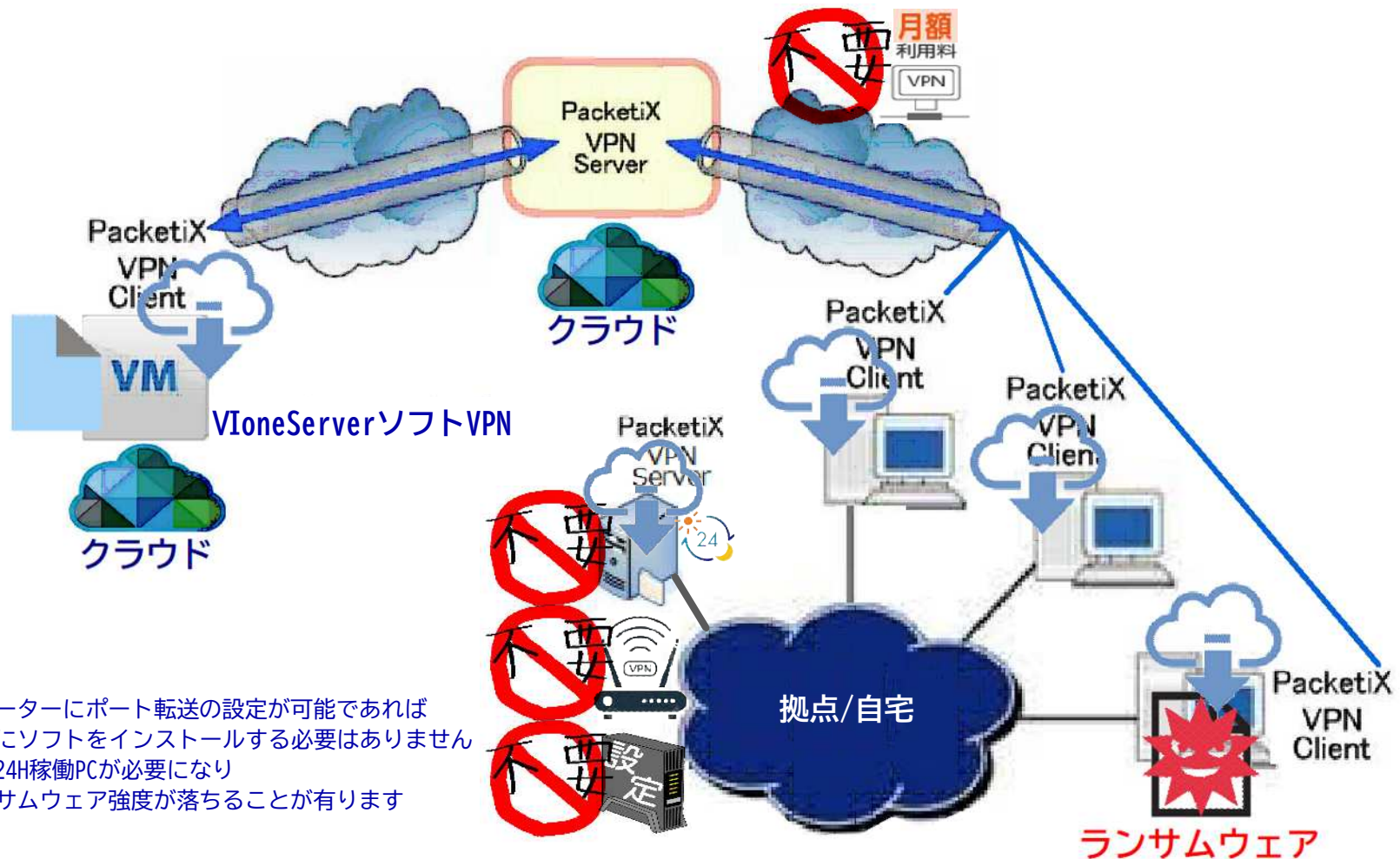
3 <サーバー>タイプ

- ①そのサーバーを仮想マシンに変換（P2V）してクラウドへ
- ②古いOSなら「カプセル化」
- ③ランサムウェア対策100%も有
- ④サーバーは実機をリースせずクラウド版を借りよう
- ⑤利用負荷に応じたスペック上下で適正料金
- ⑥VOneServerソフトVPN 他2プラン



VioneServerソフトVPN

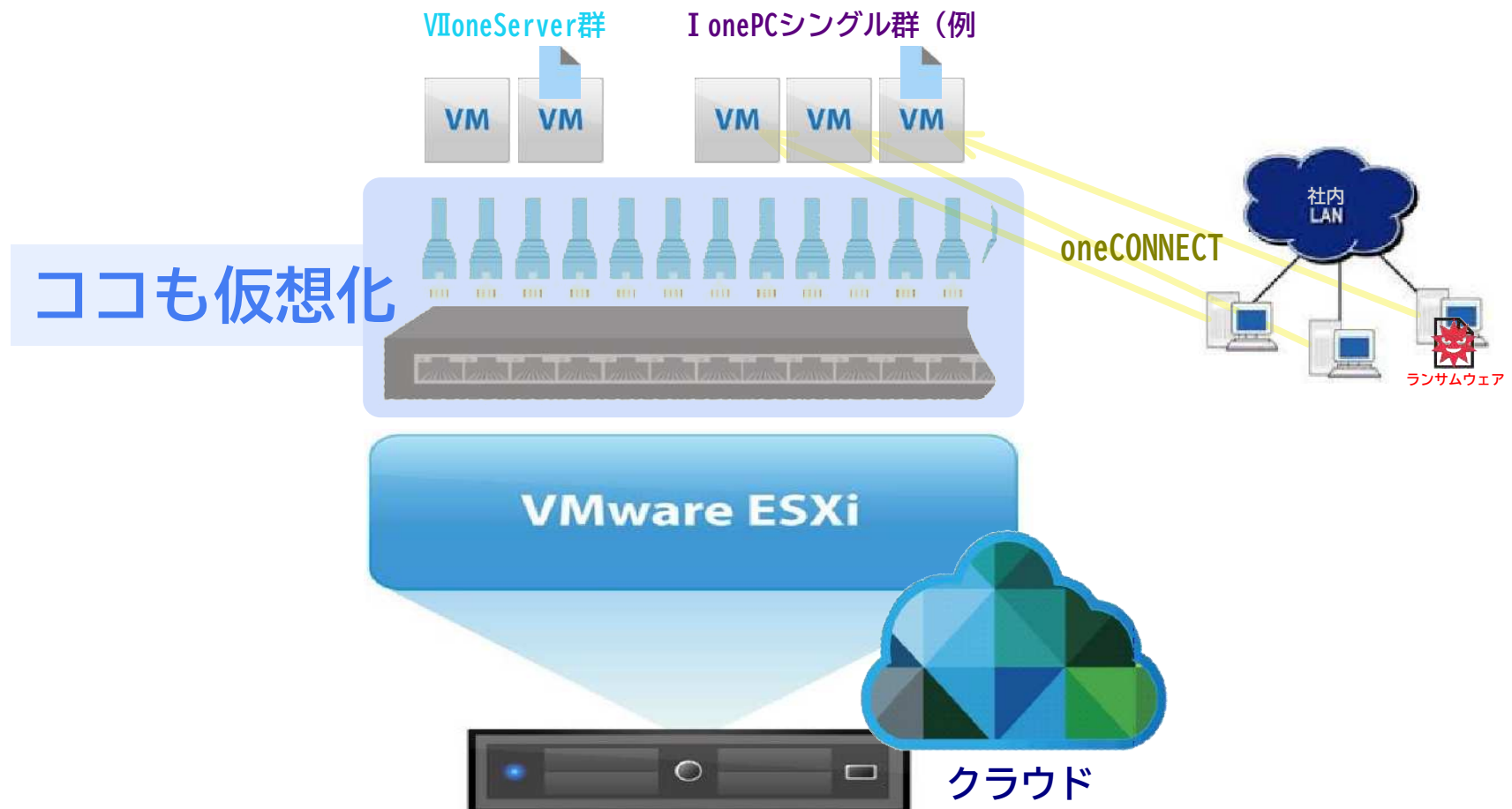
- ①以下 i ii iii iv無しでクラウドサーバーを 拠点/自宅 利用可 i VPNルーター ii 既存ルーターポート転送 iii 24H稼働PC iv 月額保守料 ②各拠点PC i にソフトをインストール ii がランサムウェアに感染してもクラウドサーバーが暗号化の標的となる可能性は低い



※もし、拠点ルーターにポート転送の設定が可能であれば
各拠点PC全てにソフトをインストールする必要はありません
ただ、拠点に24H稼働PCが必要になり
若干、耐ランサムウェア強度が落ちることが有ります

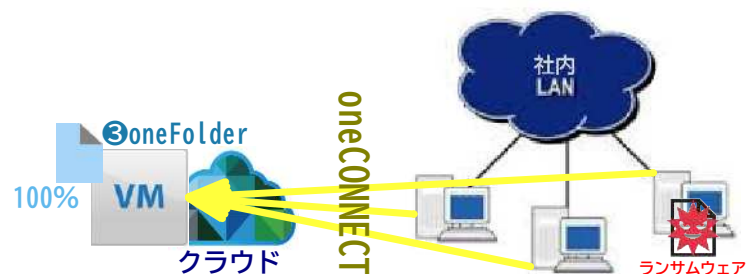
VIIoneServer

- ①onePC I シングル/II マルチ との併用でVPNが不要となり高パフォーマンスを発揮
- ②WinPCもWinサーバーも全てクラウドに置いて各拠点からのランサムウェア完全対象外
- ③WinPCもWinサーバーも全てハブ無LANケーブル無で通信するから、爆速トラブルフリー



③oneFolder

- ①耐ランサムウェア強度100% VPN不要 ソフトインストール不要 oneCONNECTだけで
- ②完璧クラウドフォルダ ③oneCONNECTさえあればOKだから取引先との情報共有にも
- ④ExplorerをRemoteAppで開きます（通常はソフトを開く為のRemoteAppですが）



oneFolder



~~不要~~
各WindowsPCへの
ソフトインストール

VPN
ルータ
設定
購入
~~不要~~

oneCLOUDの弱点

- ①モバイル利用時には安定したネット回線が必要です 新幹線を利用する際には「車内インターネット接続サービス」で接続することをおすすめいたします（事前に回線業者との契約が必要です）
※ネットが途切れたとしても向こう側では正常に稼働していますからデータに悪影響は全くありません
- ②WAN経由接続の場合（クラウド運用全般、社内運用での支店、社内運用での外出時）、以下のような問題があります
 - ・動画をご覧になる際に音ズレが生じる場合があります（YouTube等）※手元端末がMacの場合、音ズレは生じません
 - ・大容量データを手元端末からリモート先へ移動/コピーする際に時間が掛かります
 - ・3DのCADソフトを使用する際にスムーズな動きが表現されないことがあります※社内運用時の社内では上記のような問題はほとんどありません
- ③ソフトウェアだけをリモート操作する「oneSoft」の場合、別途、専用の言語バーが画面上に表示されることがあります
- ④共有フォルダをクラウドから利用する「oneServer」の場合、ファイルの起動時や終了時に待ち時間が若干発生します
- ⑤当社クラウドを経由する「ソフトVPN LAN」で、十分なネットスピードが確保できない場合には「oneServer」がスムーズに利用できないことがあります
- ⑥プラン数が7つもあり、その運営方法も複数あって、さらに組み合わせも多岐に渡ることからサービス内容がわかりにくいことがあります
（7プラン×クラウド運用/社内運用×仮想/物理）（複数プラン併用）

oneCLOUDの神髄

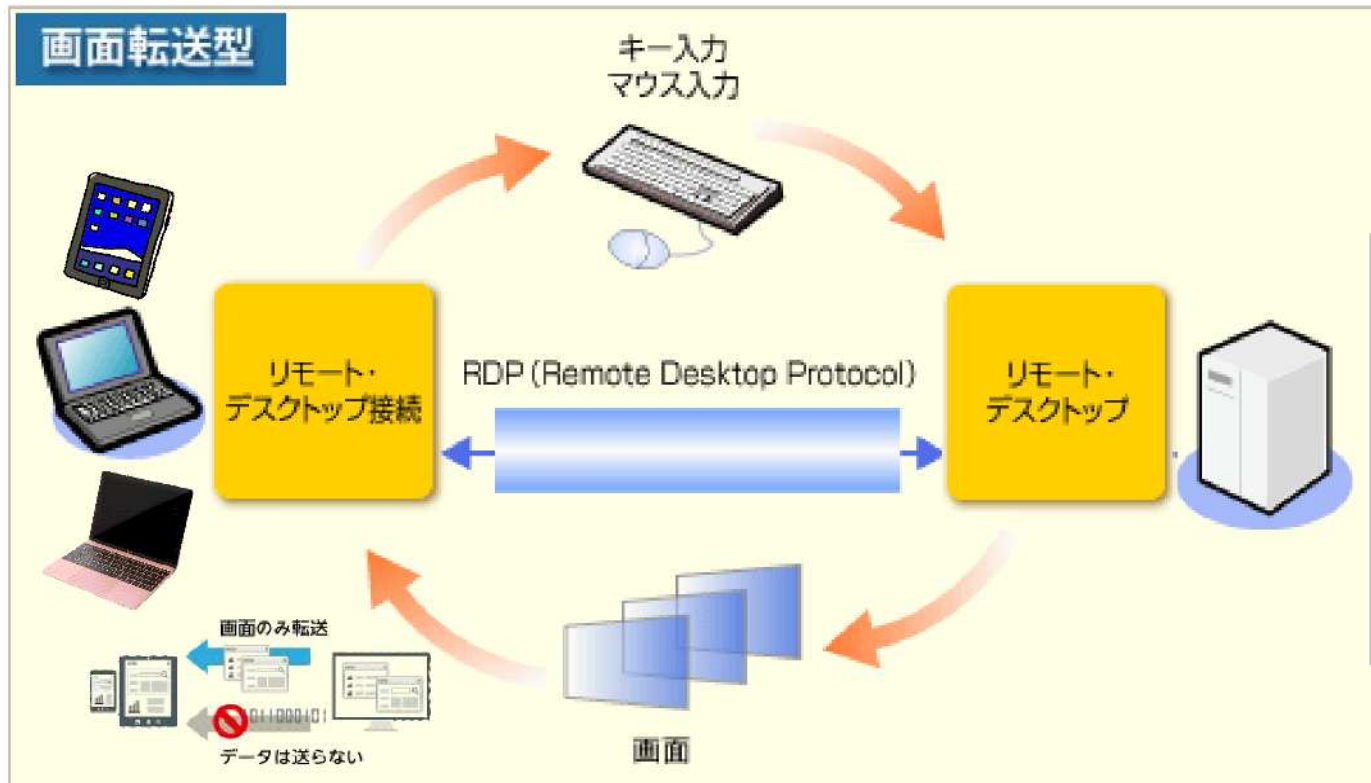
- ①普段、Windowsで仕事をしていますか？ もしそうであれば、タブレットでもスマホでも他人のPCでも、そのいつものWindowsが利用できるようになりますから、端末に関係なく普段と全く同じ仕事ができます
- ②Macの美しさに惹かれてしまうとか、ニューモデルがどうしても気になるとか、そんなアナタに朗報です
引っ越しに手間が掛からずスペックにも左右されないから、迷わず気に入ったその端末の最廉価盤を頻繁に購入してOK
- ③あなたのパソコンやサーバー、その実機をデータセンターに置いてリモート利用することも実は可能なんですけど、それでは体積で月額料金が決まるデータセンターで賃料が高額に 体積の無い 仮想パソコン/仮想サーバー で賃料を抑えます
- ④サーバー業者に騙されないで欲しい もうサーバーは購入しなくて良いんです
- ⑤出張前に間違いなく、必要な情報を社内PCから持ち歩き用PCに移動したはずなのに、全て移動できていなかった…
というあるある話 社外から直接社内PCを使ってみませんか？
- ⑥Office（エクセルとか）もIllustratorもPDFにするソフトも欲しいソフト全てがインストールされているプランもあります
- ⑦車に保険を掛けるように、パソコンの中身に保険を掛けてみませんか 消えない止まらないを保証します
- ⑧皆さんのパソコンのこと、陰ながら勝手に心配しています… なぜなら壊れたあと、元に戻す作業は大変ではないですか
例え壊れても今までのような元に戻す作業は一切不要

- クラウド：社内 → ほぼ10：0
- onePCシングル：onePCマルチ → 9：1
- 業種傾向 → 特に無し
- 一般販売開始 → 2011年4月 ～
- 基礎開発期間 → 2005年7月 ～ 2011年3月 67ヶ月

ーリモートとは？

- ①WinPCをネット遠隔操作 ②手元端末自由（iPad/iPhone/Mac/Android/WinPC）
- ③手元端末はただのリモコンだから i 壊れても ii 盗まれても 安心安全 ④感染知らず
- ⑤遠隔地（会社/DC）のWinPC操作が今のWinPCと同じ快適さ ⑥アプリケーションのみも

Microsoft標準機能 レシーバーPCはHomeでも ホストPCはPro

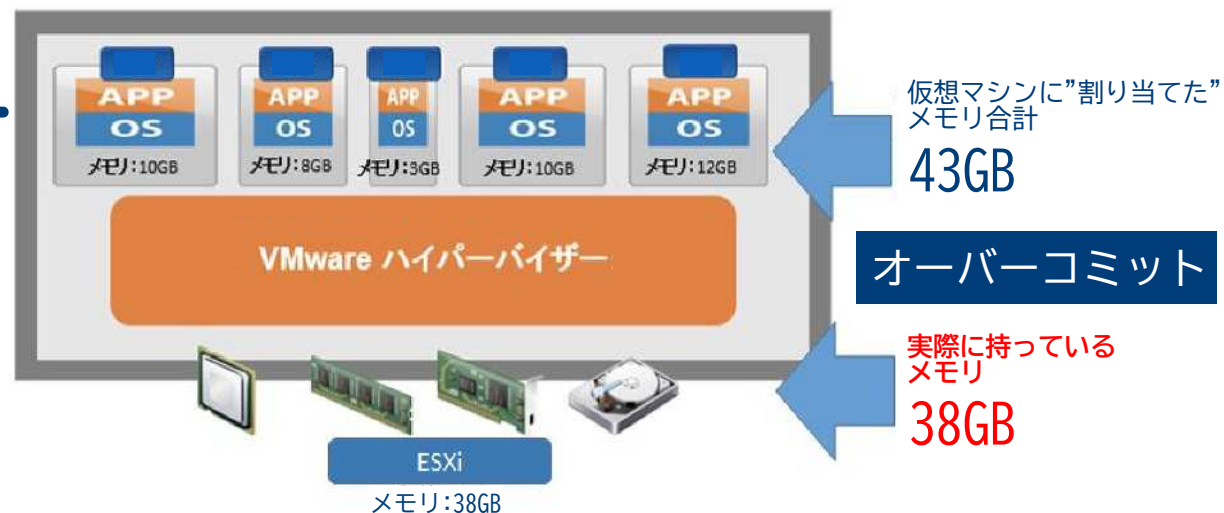
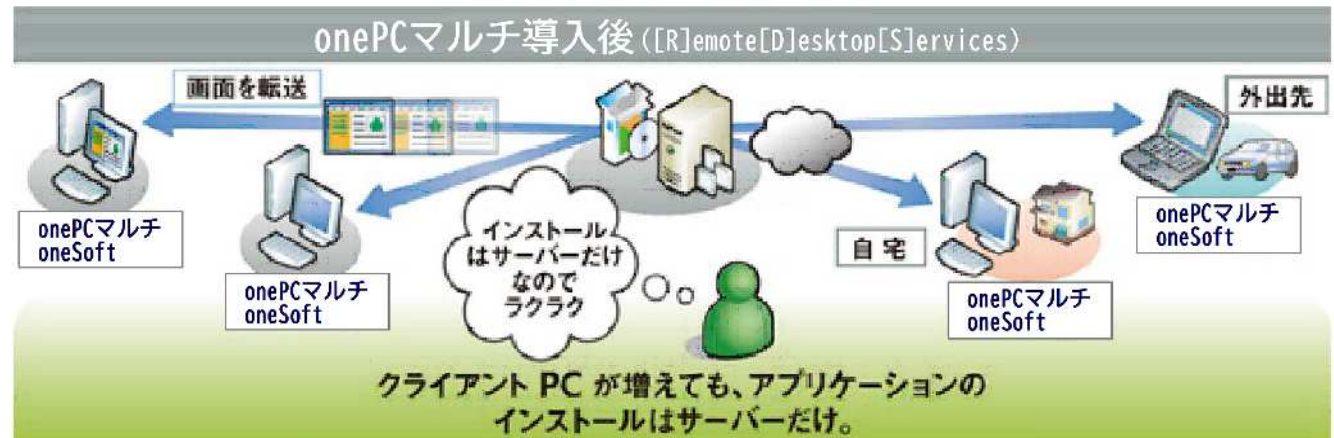
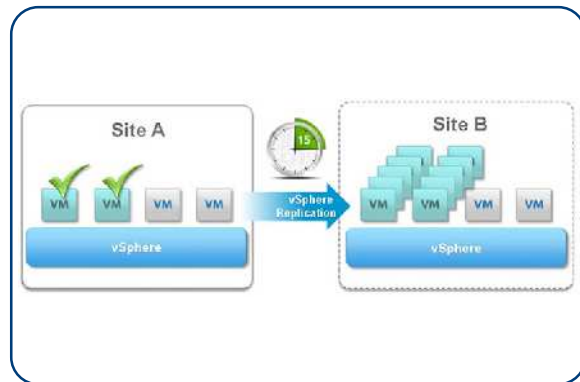


RemoteApp アプリケーションのみ



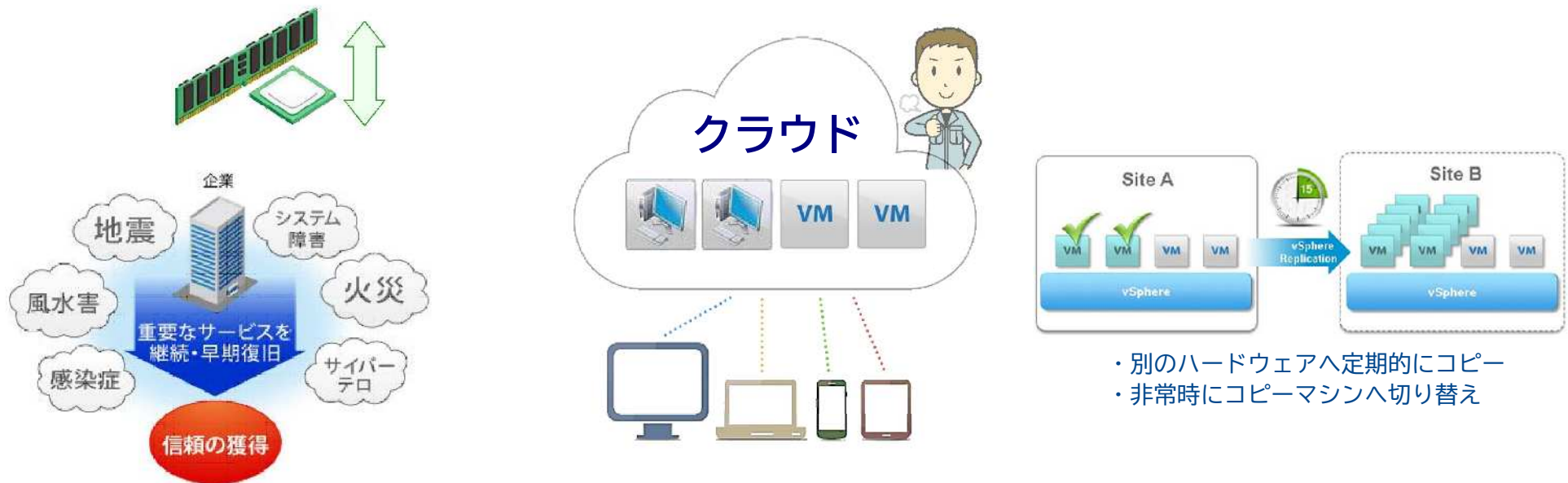
二仮想化とは？

- ①月額料金が体積で決まるデータセンターで¥0
- ②一度インストールだけでソフトを皆で同時利用可能
- ③使い続けても高パフォーマンス
- ④多数の Win PC/サーバー を共存させて低コスト
- ⑤Win PC/サーバー 万が一の際にOS丸ごと前日の状態にすぐに戻せます



三クラウドとは？

- ①面倒な仮想化を全てお任せ ②Win PC/サーバー を購入せず適正価格で月額遠隔利用
- ③「仮想化の機能や運用」最新最良を保証（社内運用のほうが高価となる可能性も）
- ④CPUやメモリの量を何度でもいつでも上下させて適正価格を保ちます



データセンターからのサービス提供をなぜ「クラウド」と呼ぶのか???

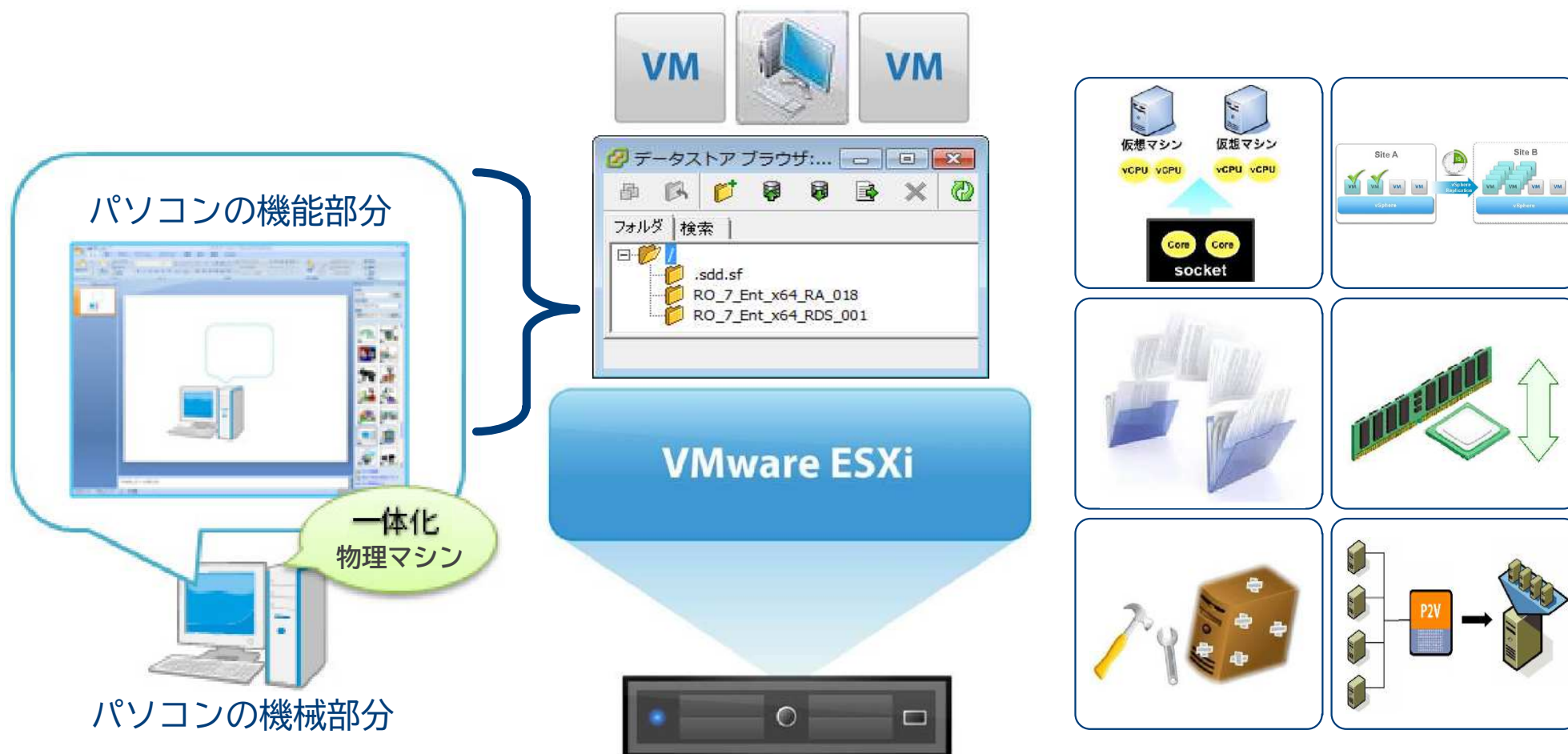
「クラウド・コンピューティング」という言葉自体は2006年8月、グーグルの最高経営責任者のエリック・シュミット氏が米・カリフォルニアで開かれた「サーチエンジン戦略会議」の中で

「ブラウザの種類も、アクセス手段も、パソコンかマックか、携帯電話かも無関係です。
“雲(クラウド)”のような、巨大なインターネットにアクセスすれば、その利益、恵みの雨を受けられる時代になっています」

という発言を受けて生まれた。

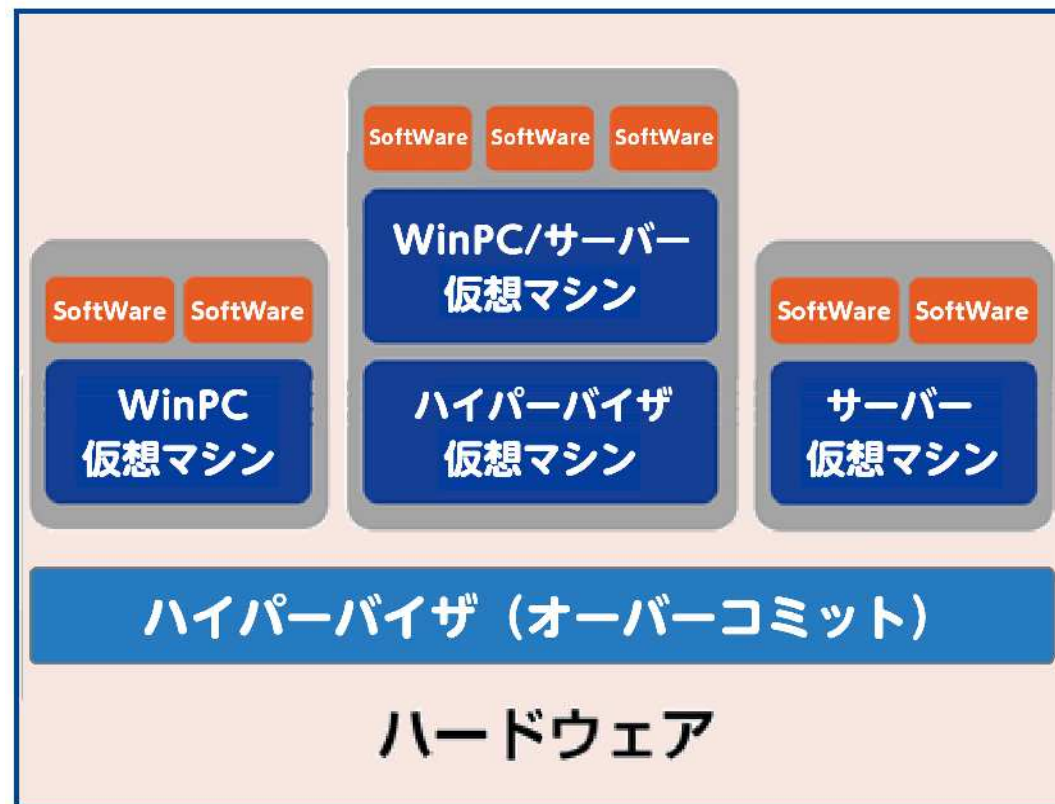
仮想マシンとは？

- ①実態はただのフォルダだから体積で月額料金が決まるデータセンターで ￥0 の条件
- ②丸ごとバックアップ/オーバーコミット の条件 ③今の Win PC/サーバー を変換可能
- ④ i コピー ii 移動 iii スペック上下 iv OS古いまま安全継続利用 が専用環境で簡単に可能



ハイパーバイザとは？

- ①仮想マシンを多数共存稼働させて仮想化機能を実現/運用するための専用「OS」
- ②HV（ハイパーバイザ）上の仮想マシンは実機の Win PC/サーバー よりも優れたパフォーマンス
- ③ほとんどの作業をGUIで実施可能でコマンドを打つ必要がない（vSphere ESXi）



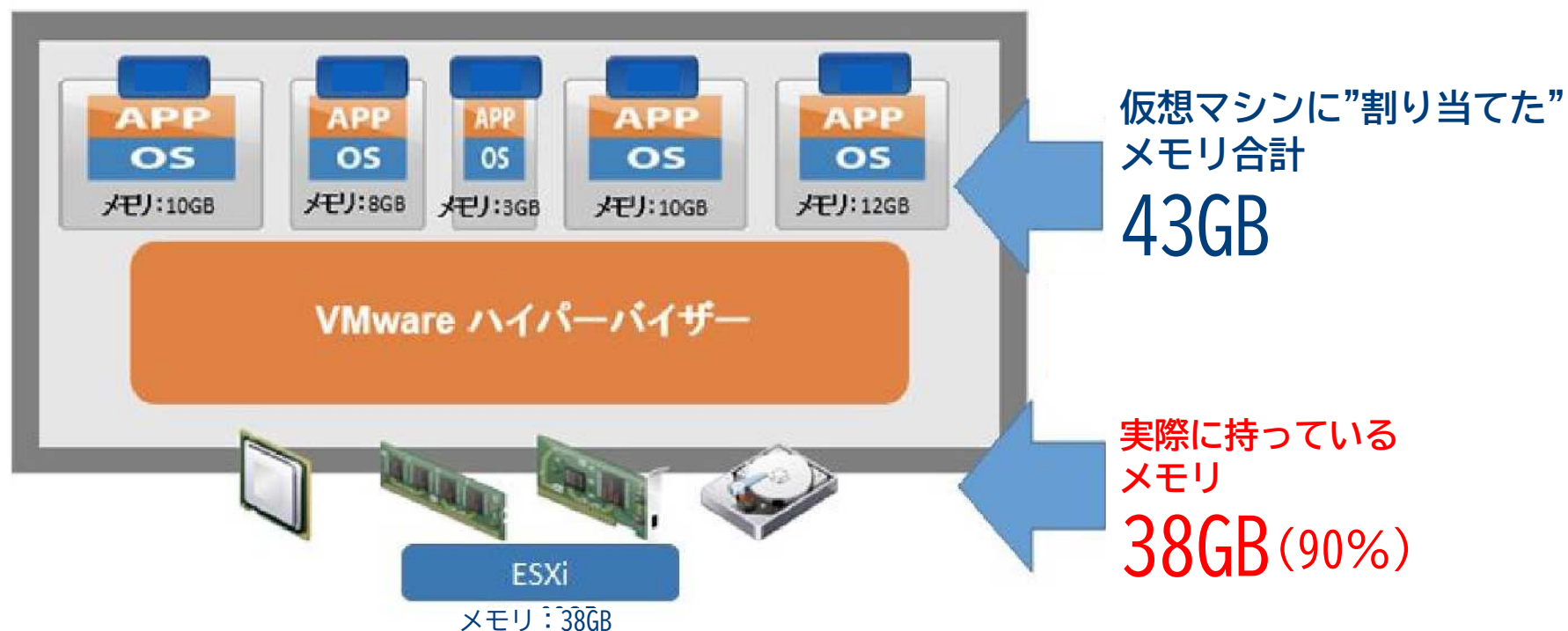
◆VMware → vSphere ESXi

◆Citrix → Xen

◆Microsoft → Hyper-V

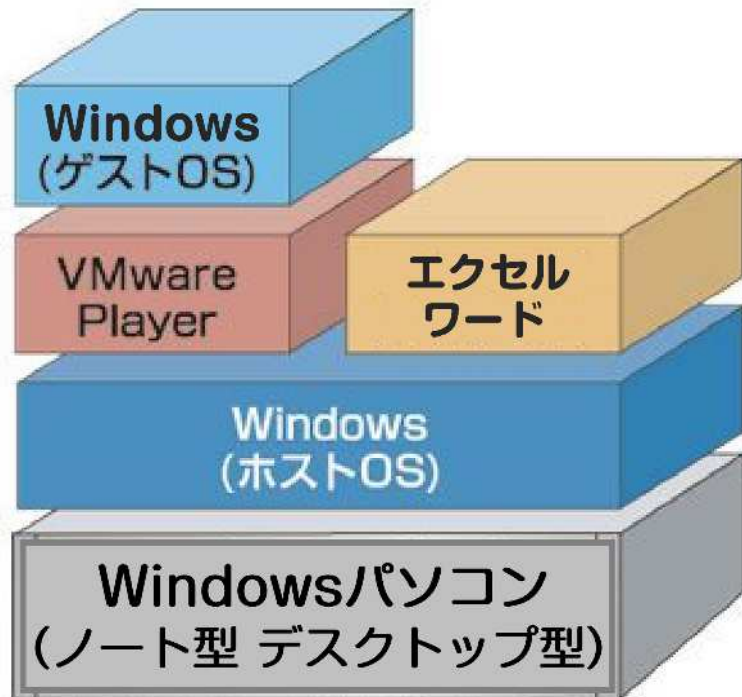
オーバーコミットとは？

- ①共存稼働している仮想マシン同士でCPUやメモリを融通し合って 高効率/低コスト
- ②例1) 実際メモリ38GBの場合でもメモリ合計43GBで仮想マシン群を安定稼働可能
- ③例2) 実際CPU20コアの場合でもCPU合計18コアで仮想マシン群を安定稼働可能



ホストOS型仮想化ソフトとは？

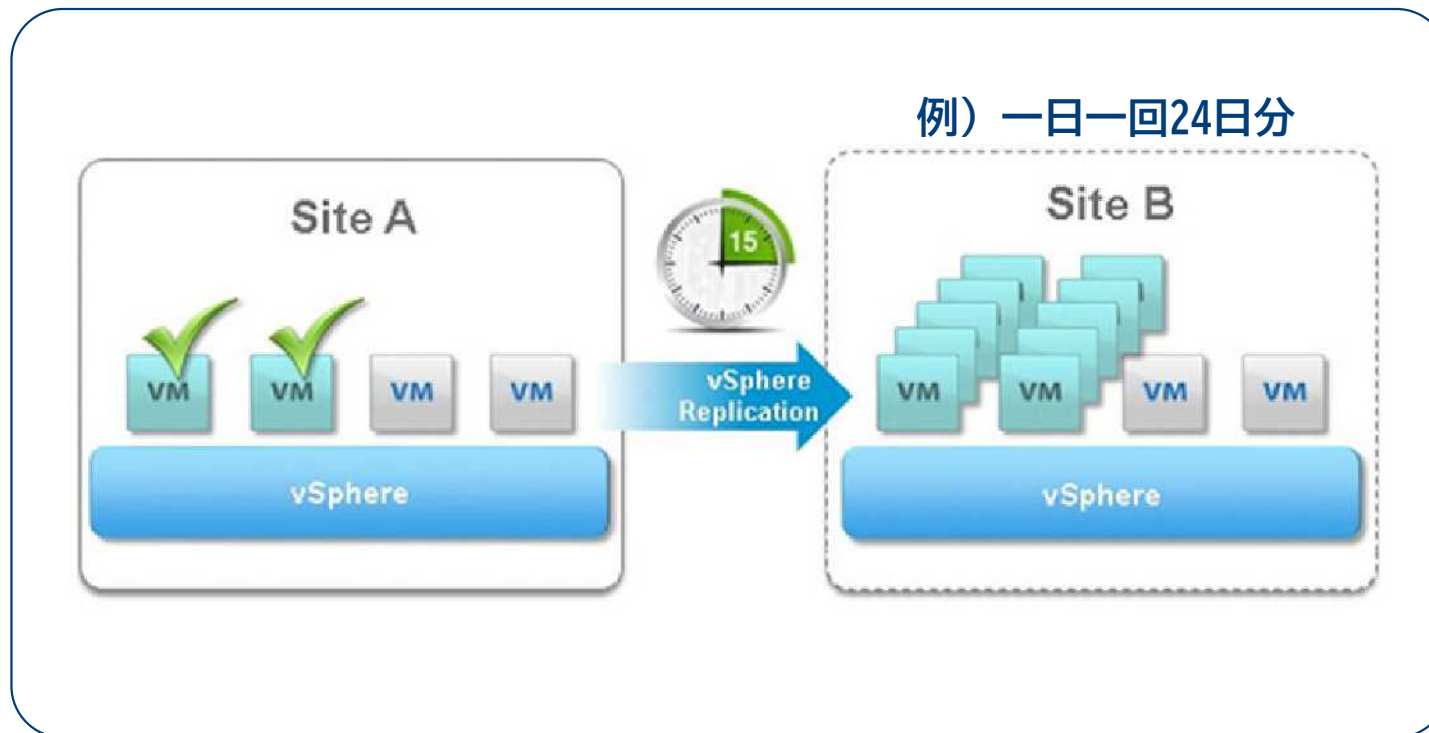
- ①Win PC/サーバー にインストールすることで、別の Win PC/サーバー の同居が可能
- ②Win PC/サーバー 内へ、クラウドの Win PC/サーバー を引越しすることが簡単に可能
- ③ひとつの Win PC/サーバー で複数の種類のコンピューターを稼働させることが可能



◆VMware → Player

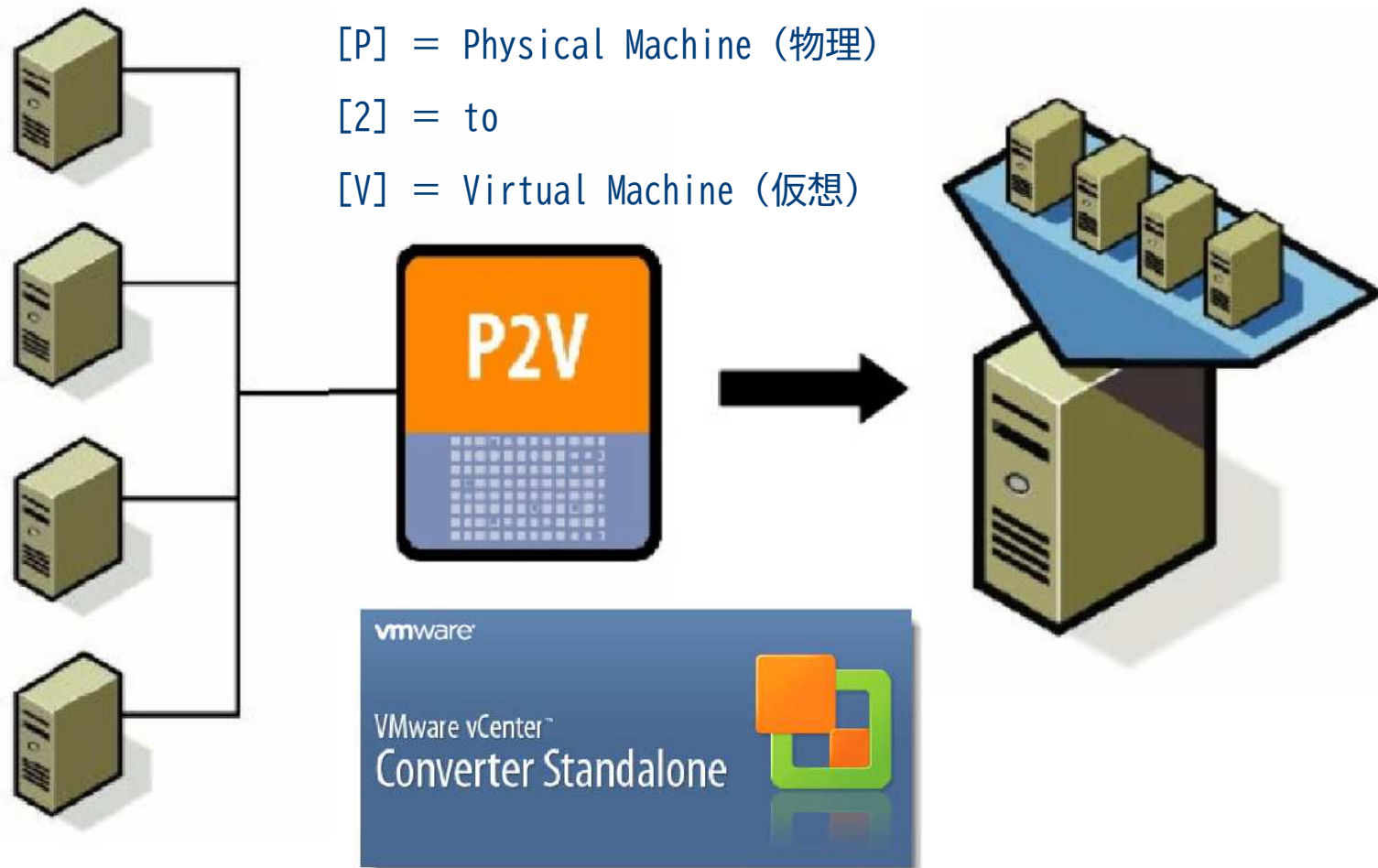
仮想マシンバックアップとは？

- ①クラウドでは、稼働中の Win PC/サーバー を丸ごと別のハードウェアへ定期的コピー
- ②仮想マシンのウィルス感染時やハードウェア故障時にはコピーマシンに切替が可能
- ③仮想マシンの特性である「実態はフォルダ」というものが存分に生かされた仕組み



P2Vマイグレーションとは？

- ①今ある Win PC/サーバー をそっくりそのまま仮想マシンに変換して専用環境へ移行
- ②HV (ハイパーバイザ) へ「引っ越し」する際に「忘れ物」が一切無く安心
- ③たった一晩でそのPCやそのサーバーをクラウドで稼働させることも可能な場合有り



[R]emote[D]esktop[S]ervices (RDS) とは？

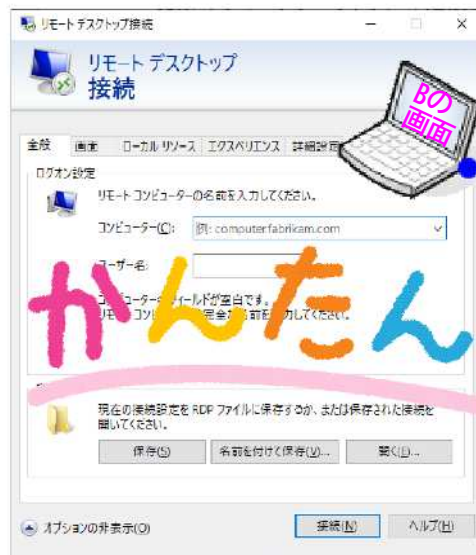
- ①マルチユーザー機能 + 複数人同時リモートデスクトップで 一台で100人もOK
- ②ライセンスは紳士協定だからリーズナブル導入 ③ソフトインストールは1回のみ
- ④2000年からWindowsサーバー標準 ⑤定型作業を大人数で、という環境に大変有効



oneCONNECTとは？

- ① **A手元WinPC**で、**B別WinPC**へのリモートデスクトップ接続が 安全/簡単 になるアプリ
- ②登録情報（15接続まで）は不可視化 ③手元PCへのコピー不可OK ④リモートアップOK
- ⑤PINナンバーで接続 ⑥コピー可(アプリはフォルダ形式) PC本体/USBメモリ ⑦**A手元WinPC**履歴残さず

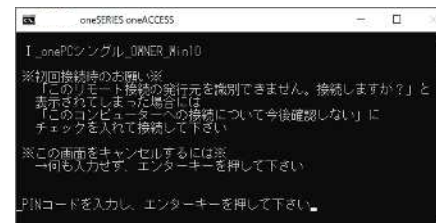
A 手元WinPC



Windows 資格情報



リモートアップもOK
コピー不可もOK



USBメモリ

プランの中には入っていませんがoneCLOUDを支える重要な仕組みのひとつです

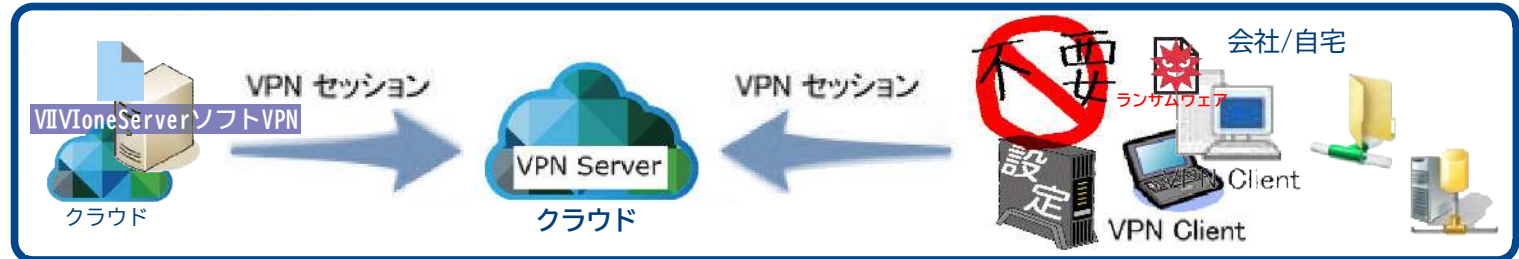
ソフトVPNとは？

- ①PCやサーバーへ「専用ソフトをインストール」してVPNルーター機器不要で遠隔地接続
- ②ルーターにポート開放の設定が不要な場合、 i 感染しにくい ii 素早く設定 iii お手軽
- ③月額費用0円（⇔VPNルーターを設置する他社の場合は月額費用が必ず発生）

ソフトVPN III onePCリモート 社外各端末から会社PCをリモート操作



ソフトVPN VI oneServerソフトVPN 会社/自宅 各PCからクラウドサーバーを完全利用



ソフトVPN onePC I シングル II マルチ クラウドPCから直接会社の複合機に印刷可能 サーバーも



プランの中には
入っていませんが
oneCLOUDを支える
重要な仕組みのひとつです

社内運用（オンプレミス）とは？

- ①社内にサーバーを設置し社内運用とすることで月額料金を抑えます
- ②全てのプランで可能（V oneSYSTEM除く）
- ③災害の時や天災の時には、その影響を受ける可能性があります



CLOUDのVMware ESXiで動いているWindowsにリモート接続

